

「人とITとの共創」特集号論文募集

特集号ゲストエディター
平野雅章

1997年にIBMの Deep Blue がチェスグランドマスターのカスパロフを破って以来、ITとAIは目覚ましい発展を遂げてきました。2011年には同じIBMの Watson が "Jeopardy!" (クイズ番組) で人間に圧勝し、2012年にはPCソフト (ボナンザ+ボンクラーズ) が米長永世棋聖に勝ちました。今年になってからは、AlphaGo が碁の世界チャンピオンのイセドルに圧勝したのは未だ記憶に新しいところです。無人自動車や医療ロボットなどの実用化も目の前となり、「10年後には半数の仕事がコンピュータに置き換えられる」というような報告書も出されるようになってきています。

ここで、産業革命において機械と対抗しようとしたラッダイトのような戦い方をすれば、人間が機械に負けることは目に見えています。先人達は、機械を味方として生産性を大いに上げ、世界を豊かにして生活水準を向上させてきました。Brynjolfsson and McAfee (2012) の云うように「Race against the Machine」ではなく「Race with the Machine」を実現するような方途を探る必要があります。

ITの効果的な利活用を主な研究領域とする本学会は、「豊かな社会造りに貢献するような人間とITとの生産的な関係を構想・構築する」という挑戦を正面から受け止めるべく、2012年の創立20周年以来、「人とITとの共創」をテーマに公開シンポジウムや大会におけるオーガナイズドセッションを開催してきましたが、この度、論文誌に特集を組むことになりました。

一世紀前には、自動車は、機械技能をもった運転手のみが運転すべきもの (道中の故障も多かったから、機械技能無しには生還の保証もなかった) だったが、馬車を駆逐し始め、新しい交通手段を用いた産業や娯楽が生まれてきました。今では、機械技能など全く持たない人々が自動車を活用して、馬や馬車では不可能だった速度や長距離の移動や大量の輸送が可能となっています。同様に、現在のITやAIを駆使して人機一体のメリットを活かすには、フリースタイルチェスに見るように、高度のIT技能を必要とするが、それによって新しい人機一体の判断プロセスや仕事の精度が得られるようになり始めています。もっとITとAIが発展するにつれ、あたかもだれもが自動車を活用することができるようになったように、だれもがAIの御利益を享受することができるようになるに違いありません。

人間とITが一緒になって新しい価値や幸せを作っていくための、基礎理論・革新的な構想・実験と実装など、関連分野において独創的かつ広範なテーマの論文を求めます。奮って投稿下さい。

締切：2016年10月31日

掲載：2016年度第4号 (2017年3月発行)

なお、編集委員会の判断で、特集号に投稿して戴いた論文を通常号に廻させていただく可能性があることをご了承下さい。

問い合わせ：経営情報学会誌編集事務局 <jasmin-edit@bunken.co.jp>